

国際的な「Climate Security」概念の展開と日本にとっての意味

地球環境ユニット 武川昌男¹

<要旨>

気候変動枠組条約下の温暖化交渉では、先進国と途上国とが対立し、膠着状態に陥っている。この現状を打開すべく、英国のイニシアチブで「Climate Security（気候安全保障）」という概念が広がり始めている。

「対策を採らないことによる被害の拡大（Cost of inaction）」は甚大であり、引いては国家安全保障をも脅かしかねない事態に繋がっていく可能性もあるため、温暖化対策は、国際社会が協同で取り組まなければならない最重要課題である、との主張である。

米国もまた、気候変動問題と国家安全保障問題を結びつけ、「Climate Security」というコンセプトで国是を固め、新大統領の下、国内エネルギー政策を推進し、温暖化交渉もリードしていこうと考え始めている。日本もこの概念に基づいた Global Governance 体制の中で、独自の貢献を果たしていくことが可能である。

お問い合わせ：report@tky.ieej.or.jp

¹ 東京ガス(株)環境部在籍（2009年4月1日～）